

係者約 50 名が 9 時 30 分にドーム玄関前に集合した。宮地東京天文台長は簡単な挨拶の後、玄関前にはられたテープを切って、新装なったドームに入り、組立てが完了したばかりの 91 cm 反射鏡写真儀を検分し、また参会者一同に披露した。

ついで一同は山頂を下り、麓の都幾川村字西平の平公民館を会場とし、11 時 30 分より、東京その他遠距離の参会者を加えて、合計約 200 名が参集し、開所式が行なわれた。式は台長の式辞、拓植東大施設部長の建設経過報告、茅東大学長の挨拶、栗原埼玉県知事および都幾川村、東秩父村、小川町三町村長代表の祝辞があり、また工事に関係した日本光学工業 K K、地元三町村、三洋建設 K K、三井造船 K K に対し、感謝状の贈呈があった。

式が終って、遠距離からの参会者は自動車およびバスに分乗して山頂の観測所を見学した。

翌 2 日は観測所のドームと望遠鏡を、一般の見学者に公開したが、この日も前日同様に空はよく晴れて、午前午後を通じて約 3000 名の見学者が集った。山頂への自動車道路は時間をきめて一方交通とするほどで、麓の村ははじめて以来の賑わいであったそうである。

なお、堂平の読みは“どうだいら”というのだそうで、これは往昔山岳宗教の栄えた当時、お堂がこの頂の平地にあったためにおこった名のようなものである。秩父山地にはこのほかにも、何々平とよばれる地名が多い。

6. おわりに

今まで記したような場所に、上に説明した様な観測室ができ上り、そこに現在の標準による最新式の望遠鏡がすえつけられた。この発足を見るまでには土地、道路、建築、望遠鏡など、その一つ一つには官民、学外、学内の多くの方面の好意がこもっている。91 cm 反射鏡写真儀の設計製作については、大口望遠鏡委員会の協力を得て、日本光学工業株式会社 の 3 年以上にわたる御尽力があった。この委員会の活動の一部は、文部省科学試験研究費によったものである。観測所の建設に当っては、埼玉県および地元三ヶ町村の御協力を得、また建物の建設は東京大学施設部の設計により、三井造船 K K、三洋建設 K K の御尽力によった。人里遠くはなれた交通不便な山頂に、今日堂平観測所の発足を見ることができたのは、これら関係各位のお力添えの賜物であり、この機会に深く感謝の意を表する次第である。新観測所ができ上った今日、これを活動させることが私達に残された進路である。充分な研究活動のためには、まだまだ施設その他になすべきことが残っており、その前途はけわしいが、私達はこれを切りぬけて新しい天文研究の場として新境地を開きたいと決意している。

◇本会だより——大塚奨学金

昭和 38 年度の日本天文学会の大塚奨学金の受領者については、昨年 10 月 31 日の選考委員会で選考の結果、本年度は該当者なしと決定した。

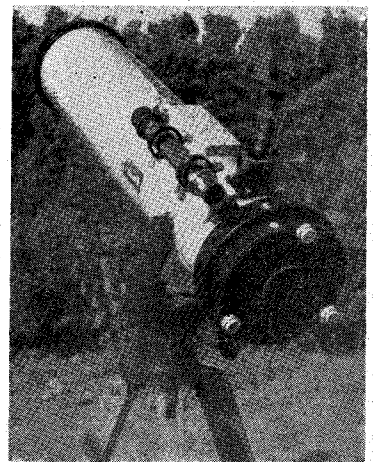
なお大塚奨学金は、本会々員の中より、毎年 1 名ずつをえらび、それに関連する分野の研究を目的とした、短期間の内地留学のための旅費、滞在費として支給するものである。詳しい規定は、本誌 1961 年 12 月号および会員名簿にのせてあるが、次年度は会員諸氏の応募を期待します。

(18 頁よりつづく)

孔の外周は半径数マイルにわたって酸化鉄クズが散乱して、トーマス氏が用意してきた棒の先きの馬蹄磁石におもしろいようにひつつく。ただし純粋な隕鉄片はあらかたひろわれてしまっていて、そうザラには砂上にコロがってはいない。私は記念のため博物館で、大枚 7.5 ドルを投じて 150 グラムの隕鉄を一個買い求めた。これはこの隕石孔周辺で採取したとの保証つきである。



カンコー天体反射望遠鏡



二十種 C G 式焦点距離二段切換
天体反射望遠鏡

- ★ 天体望遠鏡完成品各種
- ★ 高級自作用部品
- ★ 抛物面鏡、平面鏡、軸外し抛物面鏡
- ★ アルミニウム鍍金
- ★ 電源不要観光望遠鏡 (カタログ要 30 円切手)

関西光学研究所

京都市東山区山科竹鼻 TEL 京都 06 0057